

「オールくまもと」の医療介護連携を目指して くまもとメディカルネットワークのこれから

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

前回まで、くまもとメディカルネットワーク(以下KMN)について、大学病院での取り組み、具体的な利用について紹介をさせていただきました。

ご覧になり、KMNの活用方法についてご理解いただけたものと思います。

熊本県内における医療介護連携、情報共有にご活用いただけることを期待しています。

今回は連載の最後ということもあり、KMNのこれまでと仕組みのポイント、情報共有と管理について触れ、今後を展望できればと考えています。



宇宿 功市郎
医療情報経営企画
部
教授

KMN発足の経緯

KMNは平成26(2014)年に「医療介護総合確保推進法」に基づく基金が創設されたことにより始められています。地域の中で医療介護の連携が今後とも重要になってくることに鑑み、熊本県、熊本県医師会、熊本大学病院の三者でこのネットワークを構築するということが議論されたからです。

KMNの第一のポイントは、病院、診療所、歯科診療所、薬局、介護施設・事業所、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの7類型施設(以下利用施設と呼びます)の利用者の皆さんにご活用いただくことで、参加者である患者さんに不要のご負担をかける事なく、参加者(患者さん)が利用施設を訪れる前に、あらかじめ情報を共有することが可能となる仕組みであることです。

加えて、参加者(患者さん)の情報をあらかじめ蓄積しておくことも可能としています。このことで参加者(患者さん)が利用施設間を移動した際にも各施設での情報の収集が容易となり、利用施設において提供する医療・介護の質が上がるのが十分に期待されるわけです。

KMNの基本方針と特徴

KMN構築においては下記の基本方針のもと、システム導入により目指す姿をKMNならではの特徴として掲げております。

KMNの基本方針

- ① 県内のすべての医療機関や介護関係施設等を結び、「オールくまもと」によるネットワークづくりを目指す
- ② ネットワークは、医療機関から順次取り組む
- ③ 利用者が自ら賄える低コストで拡張性のあるシステムの開発を行う
- ④ 既存のネットワークがある場合、その利活用を検討する
- ⑤ 個人情報に関して万全なセキュリティ対策を行う

KMNの特徴

- ① 熊本県医師会が事業主体となり、熊本大学や他の医療関係団体、医療機関等との連携により推進している
- ② 関係者間で協議の上、各疾患で必要な情報のみを提供している※1
- ③ 現在より少ない手間で、関係機関間で必要な患者情報を共有できるシステムである
- ④ 他県に比べて利用料が低額である
- ⑤ 当初計画から介護の連携を推進している

※1.自院の全患者の全治療情報を公開するのではなく、「患者の転院や退院等の必要な時に必要な情報だけ」を関係機関のみで共有

参加者(患者さん)には、KMNにご参加頂く際に情報の共有に同意をいただき、かつ閲覧が可能な利用施設を複数登録いただき、ご自身の診療情報の共有をご自身で制御していただくようお願いしています。

利用施設でどの利用者が活用したのかも確認できる仕組みとして構築しています。

これらのことを実現するために、KMNでは参加者(患者さん)にはオレンジ色のカードを発行し、お一人お一人に16桁の熊本県内で一意の番号を発行させていただき、この番号で各利用施設発行のIDを紐づけることで、情報の連携共有を行っています。

利用施設の利用者には、緑色の利用者カードを発行しており、医師は公益社団法人日本医師会発行の医師資格証を利用してのKMNへのログインを行っています。

医師資格証は医師免許証と同等*とみなされており、診療情報提供書等の文書授受の際には電子署名が行える仕組みとなっています。

* <https://www.jmca.med.or.jp/hpki/scene/#identification01>

区分	呼称	費用	カード	注意点
患者さん	参加者	無		参加同意、閲覧許可施設登録、参加同意日以降の情報連携 参加者は文書、CD、手帳などの持参不要
医療者 医療事務担当	利用者	無		利用施設ごとに利用者登録 連携情報の蓄積可能 施設に来院前に参加者情報確認可能
医師	医師	医師資格証 利用料 (医師会員0円,非会員更新料5,000円)		利用施設で利用することを登録 連携情報の蓄積可能 施設に来院前に参加者情報確認可能
病院、診療所、歯科診療所、薬局、介護施設・事業所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター	利用施設	病院月額1,000円 その他月額500円 と 通信料		利用施設登録が第一歩 IP-VPN:KMNアプリ利用可能 検査結果・処方upload(+) SSLVPN:KMNアプリ利用可能 検査結果・処方upload(-)

KMNの連携体制

このように参加者(患者さん)を中心として、医療介護関係の利用施設の利用者間で情報の共有を行うことを目指していることがKMNの特徴となっています。

緊急時に救急病院に搬送された際には、救急モードでの閲覧を可能としており、搬送先の救急病院がKMN利用施設である際には、その参加者(患者さん)の情報を閲覧することが可能となっています。

加えてKMN運用のための連携のサーバー、ネットワークに関しても注意を払っています。

サーバーはセンターサーバー形式で、熊本県内の二次医療圏を越えての情報共有を行える仕組みとしており、県外にバックアップサーバーを構築しています。

ネットワークには地域閉域網を活用することで情報漏洩対策に努めております。

これらのことから当初の構築方針を実現しているところです。

診療情報の蓄積・共有による患者中心の医療介護連携の実現

KMN利用の基本は参加者(患者さん)に参加同意をしていただき、その際に被閲覧許可をする利用施設を複数選んでいただき、その複数の利用施設間では情報が共有できることです。

しかしながら、まず一つの利用施設で参加登録していただくことでKMNに情報を蓄積するということもできます。

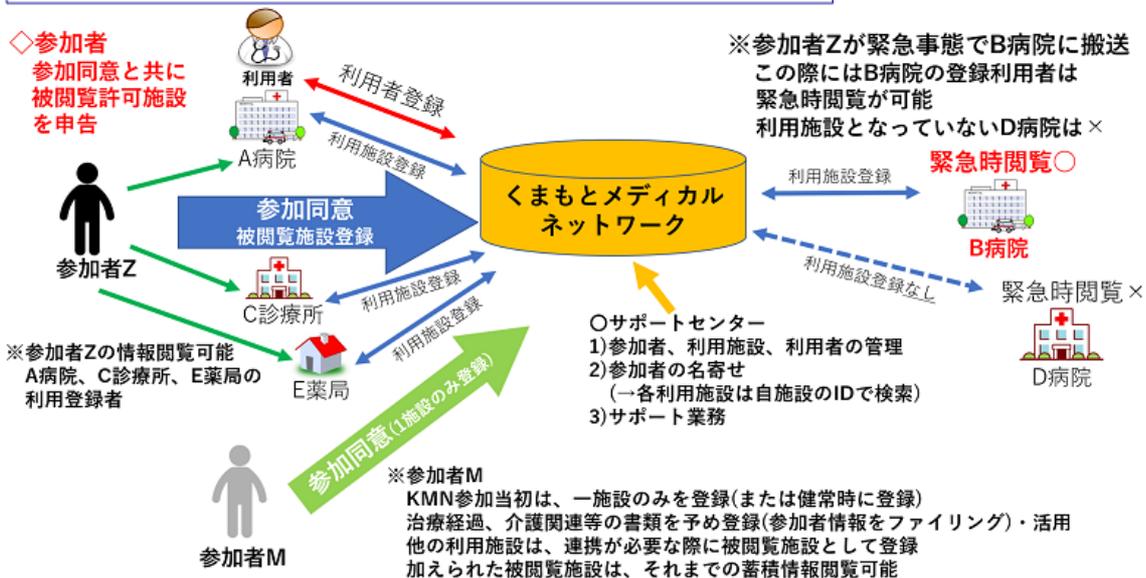
センターサーバー形式

地域閉域網で連携、private cloudであるIP-VPN、SSL-VPNで利用施設間を接続
異なる医療圏間・異なる病院NWを越えた連携が可能



このあと、参加者(患者さん)は被閲覧許可施設を加えていくことが可能であり、新たに閲覧許可となった施設においてはその患者さんの過去の受療歴などが把握できるということになります。このことは参加者、利用施設の双方に多くの利点を生み出します。

◆参加者、利用施設、利用者、サポートセンターについて



参加者にとっては、各利用施設での治療等に関する書類画像、処方内容などの情報がKMNにあらかじめ保存記録されて、自身で所持する必要がなくなる、利用施設にとっては、参加者の治療等の状況が蓄積されてますので、他の利

用施設に電話・FAX等で頻回に問い合わせる必要がなくなり、このことは参加者(患者さん)へのご負担軽減に繋が
り、各利用施設での情報収集能力を格段に改善することができるのです。

先にも述べましたが、緊急時にKMN利用施設に搬送された場合には、その利用施設救急外来で過去の情報を閲覧
してもらうということも可能となるわけです。

これは大変重要で、救急治療の時点で薬剤アレルギーその他が明らかになり、救急治療の安全性の向上に役立つも
のと考えられます。

このような利用も可能であるということをご理解頂きたいと思っています。

このようにKMNに参加していただくことは、参加者(患者さん)中心の医療介護連携を充実させるという意味におい
て大変有用であり、参加者(患者さん)のご負担を減らしつつ、安心できる体制を熊本県全体で推進することは今後ま
すます必要な仕組みと考えています。

また、世帯の構成人数が減少し、患者さんの状況を説明できる方が減っていく状況では、社会を支えるインフラとして
も大変重要な役割を担ってくるのではないかと考えております。

KMNのこれから

さて、これからのKMNについてです。

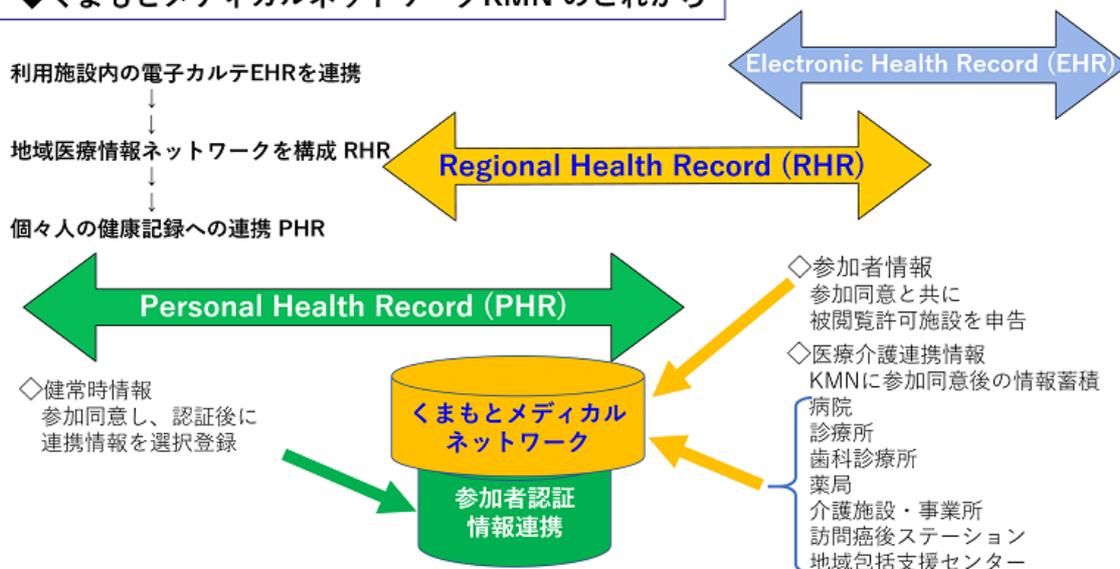
KMNはこれまでの説明でお分かりのように、基本的には、身体状況の悪化した参加者(患者さん)に向けての仕組み
として構築、運用してきております。

予め一か所でも良いので利用施設からKMNに参加登録することで情報の蓄積を行うことができ、またその情報を他
の利用施設との連携で活用するということが可能であるのですが、現時点では健康な状態からの情報の連携を行う
ということには行っておりません。

このため参加者(患者さん)からの情報を直接にいただくことも行っておりません。しかしながら、今後は参加者の幅
を広げ、健康な時点からの情報の蓄積も行なっていく必要があると考えています。

健康な状況での身体状況の記録を行なっていくと、personal health record (PHR) としての有用性につながって
いくものと考えております。

◆くまもとメディカルネットワークKMNのこれから



またKMNに蓄積される情報は様々な面での利活用も考えられます。

匿名化しての利用、様々な情報、例えば天候の情報との連携、地理情報との連携、身体活動情報との連携により、身
体状況悪化や疾病の発症や予後の予測に役立つなどのことも考えられるかと思ます。

このような新たな展開に結びつく可能性を秘めたKMNです。多くの参加者、多数の利用施設や利用者の皆さんと熊本県の健康増進、医療介護提供の推進に役立っていただきたいと願っています。

是非ともKMNの有用性をご理解いただき、今後とも参加者登録の推進、利用施設としての登録の推進にご協力いただき、また既に利用施設となっていられる利用施設の皆さま、特に医師の方におかれましては、参加者の情報を蓄積し、複数利用施設で活用するということをご理解いただければと思います。

情報が一か所にあるということは、その情報を一か所に確認に行けば良いということになります。

このことは医療介護に関わり、また地域医療連携等を行っている皆さまにとっては、様々な連絡の際に、電話・FAXを行う必要性を減らすことにも繋がります。

ぜひKMNを積極的に、ご活用いただければと考えているところです。参加者を中心にした仕組みであり、そこに専門性のある利用者で、必要なときに必要な医療・介護を提供できる点を伸ばしていくことが必須と思っています。今後ともKMNをよろしくお願い致します。

医療情報経営企画部 部長 宇宿 功市郎

副部長 中村 太志

当コンテンツ・当院に関するアンケートにご協力ください

Q1. 今回のコンテンツを見て、さらなる情報について知りたいですか。必須

- 該当しそうな患者がいるので相談したいと思った。
- 今のところ該当患者はいないが、発見した場合は紹介を前向きに検討したい。
- 本トピックで実際の勉強会があったら参加してみたい。
- 相談や勉強会までは不要だが、コンテンツがあれば引き続き見たい。
- とくに興味はない。



宇宿 功市郎(うすく こういちろう)

医療情報経営企画部 教授

【学会専門医・認定医】

社会医学系専門医協会専門医、指導医

日本内科学会認定内科医

日本神経学会神経内科専門医、指導医

難病指定医

お問い合わせ先



熊本大学病院 熊本大学病院事務部 医療サービス課 地域・がん医療連携担当

TEL:096-373-5734

FAX:096-373-5828

メールアドレス: iyks-ganrenkei@jimu.kumamoto-u.ac.jp

ホームページ: <https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/>

[地域医療トップ](#) に戻る >

地域連携のご担当者様へ - 情報発信しませんか？

本サービスは、地域の中核となる病院とかかりつけ医の連携を目的として、病院が取り組んでいる医療の取り組みを記事としてお伝えしています。病院から地域のかかりつけ医の先生方への情報発信についてご興味がある方は、ぜひお問い合わせください。